

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 相生市

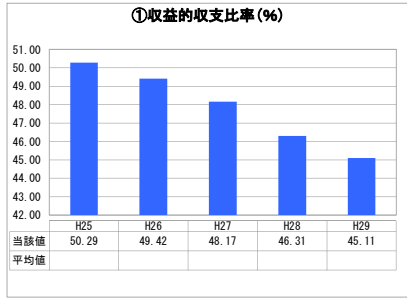
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	小規模集合排水処理	12	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	0.11	100.00	2,869

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
30,107	90.40	333.04
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
34	0.01	3,400.00

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



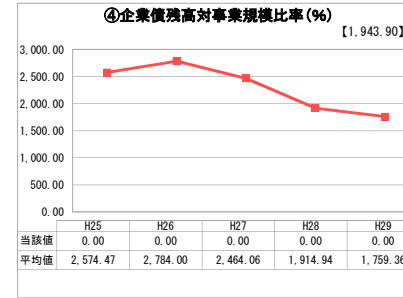
「単年度の収支」



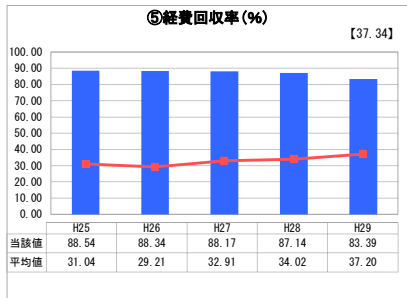
「累積欠損」



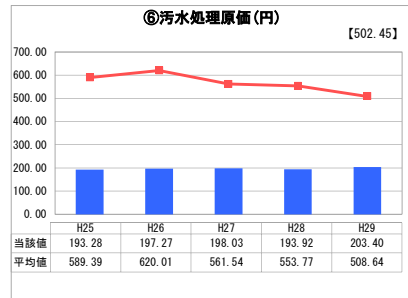
「支払能力」



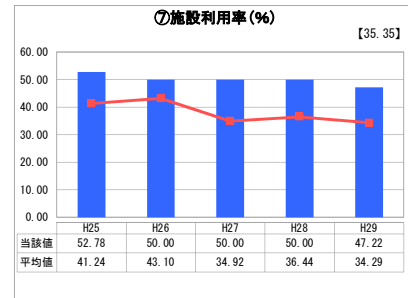
「債務残高」



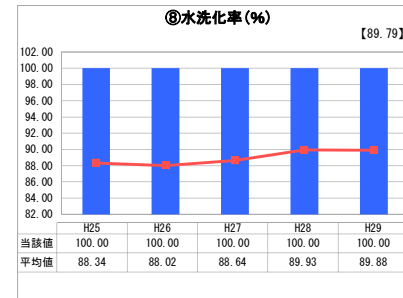
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

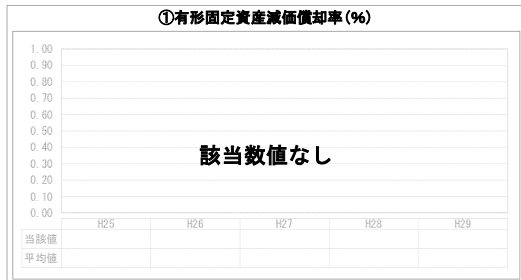


「施設の効率性」

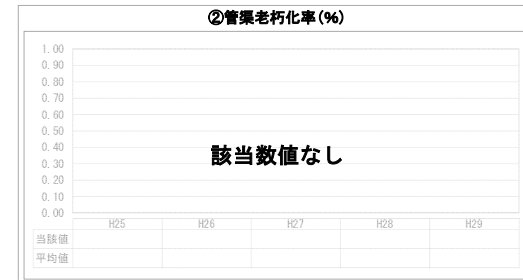


「使用料対象の捕捉」

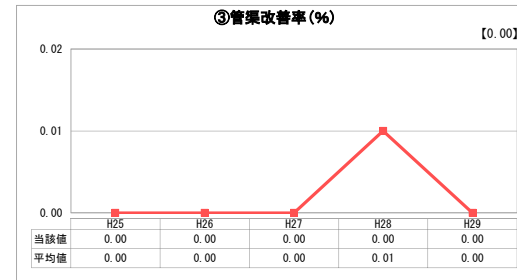
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

地理的要因から公共下水道の供用区域から大きく離れた地区にて実施する事業のため、対象人数が少なく事業も小規模である。既に対象全世帯の水洗化も完了しているため、普及拡大による収入増は見込めない状況にある。

維持管理業務に関しては農業集落排水事業と一体で委託することで効率性を高め、経費の上昇を抑えているが、近年の有収水量の減少傾向もあって使用料収入が伸び悩んでおり、企業債償還の費用を含めると現状の使用料収入規模ではカバーしきれず、収益的収支比率が低い要因となっている。類似団体に比べ使用料対象経費に対する回収率は高く、利用者の費用負担の水準も低くはないほか、施設利用率も平均以上と経営や施設の効率性が著しく低いとは考えられないものの、結果として一般会計からの繰り入れによる支援が不可欠な状況となっている。

### 2. 老朽化の状況について

供用を開始してから年数が浅いため、管渠、処理場とも当面適正な維持管理の継続によることで大きな更新等は必要と考えられる。

### 全体総括

対象が限定される事業であり、水洗化も完了している現状では利用増が見込めない状況であり、将来の更新費用の確保を含め、使用料体系の検討を含めた経営改善の取り組みを続けていく必要がある。一方で本事業は地理的要因により公共下水道等大規模な集合処理に加われない地区に採用した側面もあるため、使用料体系を含めた経営改善の具体策については、他事業も含めた市の汚水処理事業全体で検討し、実情を踏まえたうえで「経営戦略」を策定して取り組んでいく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。